

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600178		
法人名	株式会社実喜		
事業所名	つまごい笑みの里暖輪		
所在地	群馬県吾妻郡嬭恋村今井字下石津1287-68		
自己評価作成日	令和3年3月	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人が、その人らしく生活できるように職員一同心がけるようにしています。その為に生活のサイクルも様々であるので、一日の動きで決まっているのは食事やお茶の時間だけにしてます。認知症の方ばかりなので周りがあわただしくなると不安につながってしまう為、職員も急いで業務に当たらないように心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和3年3月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者、ケアマネジャーがこれまでの経験を活かし、支援におけるポイントを押さえた、気配りのある取り組みをしていることがうかがえた。例えば、利用者に入浴の希望があれば実施するが、意思表示ができなかったり、実施自体がわからない利用者にも忘れずに声をかけをし、入浴する利用者を見て、「自分も入りたい」という利用者の希望にも応える等、一人ひとりの利用者を理解し、経験を積み重ねてきたからこそできる、気配りのある支援をしている。また、帰宅願望のある利用者へは統一した対応を共有し、実践することで、利用者に安心感のある環境を提供している。単に個々の職員の経験を優先させるのではなく、法人としてチームワークの良い統一感のある支援に取り組む姿勢は、2か所目のグループホームとして培ってきた経験の現れといえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【その人らしく過ごすことができる】という事を大切にしています。入居者様の対応が統一して行えるよう、申し送りやカンファレンスなどを行うようにしています。	アセスメントで聞き出せなかった利用者の意向を寄り添うことで引き出す職員の様子や、特技を活かし、チームでケアにあたる様子から、職員は理念を理解し、実践に繋げていることがわかる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度から新型コロナウイルスの感染拡大により、今まで行っていた福祉フェスタ等地域との交流ができにくくなっています。その中でも雪の時期になると地域の方が雪かきを手伝ってくれたりするようになり、近隣の地域の皆様とつながりができてきています。	コロナ禍の現在はほとんど外部の人と関わることはないが、地域の小学校からイベント等の情報が入ってきたり、近隣の回覧板が回ってくる等、地域、町内会の一員として、日常的なつきあいに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方から、どのような施設でどのようにすると入れるか聞かれるようになり、その都度聞かれたことに対応できるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も昨年から新型コロナウイルスの感染拡大により、感染対策として中止していますが、運営推進委員の方々には資料を作成し郵送し運営内容は周知してもらっています。	昨年の10月より2ヶ月ごとに書面開催とし、家族の他、通常の出席者へ行事報告、状況報告、虐待についての勉強会の内容等を議事録にまとめ、郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者様の利用状況や生活レベルなどを報告し、コロナ関係の会議などでは情報交換をしたり協力関係を築いていく心がけています。	管理者、ケアマネージャーと町役場の担当者が連携をとり、良好な関係にある。家族から依頼があれば介護保険の更新代行、認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフの人数・配置状況やその日の入居者様の精神状態により、玄関の自動ドアを手動に切り替えています。また、拘束になる言動などについても会議の中で話し合っています。	玄関は状況に応じ開錠している。他の拘束はない。職員会議の際、定期的に身体拘束、虐待等を議題に挙げ話し合い、その議事録を運営推進会議で報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で会議などの時に虐待について理解し、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要になった場合、関連施設や村の担当の方と相談し、協力し支援していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、入居者・その家族に対して理解しやすいように説明し契約内容を十分に理解して頂いてから契約しています。解約の際も、同様に話し合い、合意の上で解約してもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申し立ての説明は、契約の際にしてあります。また、家族の面会時には職員も話しかけ要望や悩みなどは無い会話の中でくみ取れるよう心がけています。	利用者には意見や要望について具体的に答えてもらえるよう尋ね、職員間で共有し、実践に繋げている。家族には毎月利用者の状態を電話で伝え、その際、意見や要望を聞くことを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りなどで、情報交換をし相談をして貰うようにしています。またスタッフから業務改善の提案があれば他の職員にも意見を聞き必要だと感じたら改善し、より良い運営ができるようにしています。	職員からは日常的に利用者に対する意見や提案が出ている。例えば、利用者の状態変化に伴い、食事の調理方法や提供方法を変えることを提案し、話し合った後、支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の生活環境を把握し、意見を聞きながら就業時間や就業形態を考えています。また、就業実績に応じて評価をしそのうえで昇給などを考えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最近新型コロナウイルスの影響で外部の研修や講演会に行く機会がないですが、また参加できるような環境になったら参加してもらいたいと思っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの関係で、勉強会の開催などはないですが、村内で行われる情報交換会には参加するようにしています。その中で多職種との交流がある為そこでの情報交換は大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者がいる場合は、事前にその方に会いに行き、情報収集をしています。そしてそれを職員に提示し確認してもらい、その方が入居後も安心して生活できるよう、表情や言動を観察するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず、入居者様・家族の方に会いに行き、生活歴・現在の生活状況を伺い、どんなことに困っているか、その方や家族の方にはどんなサービスが必要なのかを確認しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に要望を聞き、入居後はその方や家族にあったサービスが提供できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活する中で安心してその方らしく生活できるように、入居者様一人一人に合った生活環境をつくり、接するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には、生活状況や、身体状況の変化が見られる場合、連絡を取り入居者様について一緒に考えていけるようにしています。また新型コロナウイルスで面会制限をしている為、写真などで顔を見てもらうようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のなじみの人や、場所など理解し支援するよう心掛けていますが、新型コロナウイルスの関係で思うようにできていないのが現状です。	馴染み深い地域や自宅に帰りたいという利用者の思いを家族に伝えたり、介護計画に入れ支援に取り組んでいる。在宅時のアセスメントで、自宅にある物や趣味の物を持ち込むことを説明をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格などを把握し、席を考慮しています。又その中で、トラブルが起きないようにその日の表情や、不穏状況などに気を付け関わるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際は、終了後も相談しやすいような声掛けをするように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が、どのような暮らしをしていたか、また入居後はどのような生活を送りたいかを確認しなるべく希望に沿って生活が出来るようにしています。	利用者の思いや意向は入居前の会話から把握し、入居後に変化があった場合は、確認しながら利用者の希望に沿った支援に繋がっている。家族からは面会時や電話での会話を通して確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、入居者様の生活歴や今現在の生活の状況などを把握し、その情報をスタッフで共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムや、定期受診・生活状況などの情報を記録し共有することで現状を把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人・家族と話し合いまた必要であればその他の関係者とも相談をし、本人にとってより良い生活が送れるように介護計画を作成していくように心がけています。	毎月モニタリングをし、3ヶ月ごとに計画を見直し、その際担当者会議を開いている。一日のケアを時系列で記録し、計画に沿った個別記録と合わせて、後の介護計画作成に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況ADL・受診時の様子などを状態把握や個人ノートに記入し、職員全員が把握できるようにしています。また受診時に状態の変化があれば職員で話合い、家族の意向を聞き介護計画の変更や追加をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が日々生活する中で生じる、様々なニーズに沿えるような柔軟なサービスが提供できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を理解したうえで、入居者様が穏やかに安心して生活できるように心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所する前にかかりつけ医を確認しています。協力病院の受診でよければ職員対応で受診可能なことを説明しています。入居後も適切な医療を受けられるようにしています。	かかりつけ医の確認をし、毎月1回職員が受診に付き添っている。歯科は希望するかかりつけ医がある為、必要に応じて家族に受診を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診の際は、状態把握ノートに記入することを徹底しています。また、処置などの指示が出た場合は、看護職員に伝達し施設内でも的確な看護を提供できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際は、入院先の地域連携室と連絡を取り、入院中の情報や状態などをきき、入居者様が早期退院できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化・終末期には今後起こりうる状態を本人・家族・協力医・職員等関係者と話し合い、適切な支援ができるようにしています。	事例はないが、看取りの希望があれば実施する。看取りの同意書はあるが、3年経過し、健在の利用者がいる。夜間の対応等主治医と連絡を取り合い、情報を共有し、チームで支援にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成しており、スタッフで共有しています。また救急車の要請手順を作成し、だれでも対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接しているホームで協力し合い、避難できるように訓練を行っています。今現在はコロナウィルスの為消防署の立ち合いの訓練は見合わせています。	消防署の立会いはないが、職員が交互に訓練の担当を受け持ち、避難誘導訓練を実施している。ハザードマップで特有の災害や避難場所等を確認している。3日分の水、米、缶詰を備蓄している。	18名の利用者の生命を預かっていることを念頭に、自主訓練の回数を重ね、避難方法を身につける取り組みをしてみたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の人間性を尊重し、声掛け接し方を考え対応しています。又入居者様のペースで生活できるように配慮しています。	トイレ誘導の声かけは周囲に配慮し、整容等自分でできることは見守っている。異性介助になることを説明したり、利用者間の力の差が顕在化しないよう、利用者の人格を尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が業務に追われ慌てて行動せず余裕をもって行動するように心がける事で、入居者様が思っている事、感じている事を言いやすいような環境・人間関係を築けるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望を聞き、希望に沿った生活ができるように毎日取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今は新型コロナウイルスの感染対策の為、希望時に訪問してもらうのではなく2か月おきに美容師に訪問してもらい散髪できるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるように、毎食の献立を記入し提示しています。刻みの方には、献立の説明をするように心がけています。	利用者が好む昔ながらの味付け、馴染みある食材を心がけている。食が進まない場合は利用者が好きな物を用意し、体重減少とならないよう配慮し、形態を変えない軟菜食を工夫し提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食観察し、記録しています。水分摂取状況は、夏場や入居者様の身体状況により観察するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは個別に声掛けを行い行っています。ADLに合わせて見守りや軽介助をし口腔内の清潔保持をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄動作の状態を観察し、その方にあった支援をするように心がけています。また状態の変化がある場合は、職員で相談しその都度検討するようにしています。	利用者ができる限りトイレで排泄できるよう職員は支援している。夜間も自分で行く人、声かけが必要な人、熟睡してしまう人はおむつを使用する等、利用者によって個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の予防・改善を心掛け、定期的な運動や水分摂取をするように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表はなく、入居者様の体調・気分を見て入浴してもらうようにしています。	利用者は週2回入浴しているが、1日おきに声かけをしたり、褥瘡処置の為、連日であっても利用者の申し出に対応している。また、水虫薬の塗布が必要な場合は、毎日足浴を実施している。	毎日、入浴できるといった情報を提供し、利用者が選択できる機会を作り、声かけにより、利用者の入浴パターンの把握に繋げてみてはいかがか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して睡眠がとれるように、入居前に使用していた、寝具や家具の持ち込み可能としています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服状況・内服情報は職員一同共有できるようにしています。又変更があった際は、申し送りをし状態把握ノートに記入し全員が見られるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や入居時に聞いた情報を基に、その方に合った時間を過ごし、生活できるように心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望がある際は、なるべく希望に沿って散歩に連れていけるように心がけています。今はコロナウィルス感染対策により外出が出来なくなっていますが、車内にてダムを見に行ったり、ドライブをするように心がけています。	コロナ禍で外出できない状況にあるが、希望があれば職員が付添って散歩に出かけることもある。また、地域内をドライブする等、外出の機会を作る為の工夫に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援の際に、支払いができる方には基本行ってもらっていましたが、今現在の入居者様の現状では難しくなっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいと希望がある際は、希望に沿って控えている番号に電話をかけ対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、天窓から自然な光が入るようにしてあり、外出があまりできない入居者様が外を感じることが出来るように天井の壁紙を工夫するようにしています。又四季折々の作品を作成し、玄関や居室に飾ってあります。	掃除の際、換気をし感染防止に努め、清潔感のある共用空間作りをしている。また利用者が見易いカレンダーや献立を掲示し、季節を感じられる窓からの風景や飾り付けで生活に潤いを与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるホールは固定の席は決めずにその日その時の入居者様の気分で座ってもらうようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使用しなれた寝具や家具等を持ち込み可能であることを説明してあり入居後も過ごしやすいような環境作りを心がけています。	入居時には馴染みの家具や寝具、テレビや仏壇等の持ち込みを勧めている。日常的には換気の為窓を開け、在宅時のような配置換えをすることもあり、居心地の良い居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の残存機能を理解し、共有してその方に合ったケアを提供できるようにしています。また状態が変わったときには職員間で話し合いその方に合った生活が送れるように支援しています。		